

あとがき

本書は、アジア経済研究所において実施した2009年度機動分析研究会「パキスタン政治の混迷と法システム」の成果である。このような研究会を立ち上げた背景には、ここ数年、パキスタンの政治動向に絡むパキスタンの法制度についてレファレンスを受けることが何度かあり、そのたびにパキスタンの法制度に関する邦文の研究が隣国のインドに関する研究と比べても相当に少なく、何らかの形で整理しておく必要性を編者が感じていたことがある。そうこうしているうちに、事態は急速に動き、ムシャッラフが失脚し、およそ10年ぶりに民政が復活した。その過程では、日本においても報道されていたように、司法部のプレゼンスが大きかったと思われた。そこで、パキスタンの司法部や法制度の特徴を明らかにし、パキスタンにおける法の支配について考察する本なり資料なりを、早急かつ簡潔にまとめる良い方法はないかと模索しはじめたのである。

本格的な学術研究を行うには準備期間が足りないことは明白であり、そこで思い浮かんだ方法は、冒頭の章において時間をおってなにが政治舞台で起こっていたのかを整理しつつ検討し、そのなかで現れる重要な法制度上の論点や疑問点をいくつか取り上げ、それらの論点を残りの章で解説しつつ検討するという方法である。このようなアイデアのもと、2009年5月にこの研究会を佐藤、浅野、小田、中西の4名で立ち上げたのである。

はたして半年の研究会で成果をまとめることができるのか、当初は危ぶまれるところもあったものの、アジア経済研究所の図書館にはパキスタンの憲法や法制度に関する現地文献や判例集も一通り蓄積されており、足りない資料や情報を、それぞれの研究会委員が現地に赴いて調査を行うなどして補った。そうした調査の結果をもちより、討議のため4回の研究会合を行い、まとめたものが本書である。

それぞれの委員が赴いた現地調査では、多くの方にご教示とご協力を賜っている。紙幅の都合上、お世話になったすべての方々のお名前をあげることはできないものの、この場を借りて心より御礼申し上げたい。

編者